

# 過重な基地負担の原点

## 検証・沖縄返還密約

沖縄の施政権返還をめぐる密約問題が、復帰三十三年を迎える今年、クローズアップされた。沖縄返還協定の密約は米側の公文書で証明されているが、政府は存在を否認し続けている。密約を裏付ける秘密電文を暴露した元毎日新聞記者の西山太吉さん(73)が四月、政府の責任を問う訴えを東京地裁に起こした。日米安保体制に影響を及ぼす、過重な基地負担の原点ともなった沖縄返還密約関係者は「過去の問題ではない」と訴える。「基地の島」の今に続く問題として検証した。(政経部・松元剛)

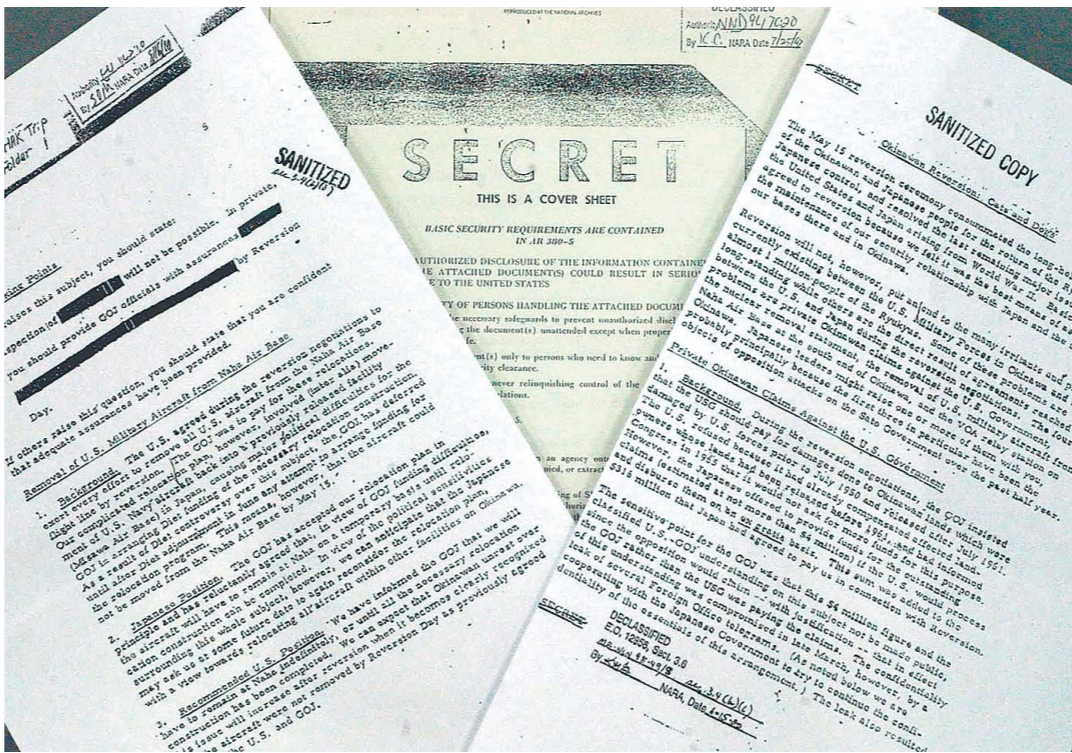
# 2億ドルの裏負担明示

## 証明する2通の米公文書

### 琉球諸島の民政史

沖縄返還協定に関する 二〇〇〇年五月、我が部

政明琉大教授らが、返還施設の改善・移転費六千五百万ドルなどの秘密資料を公開した。米公文書は、政府が負担していたことを明らかにした。日本側の裏負担は約二億ドルに上り、返還協定は封印された。陸軍省参謀部軍事史課が作った「琉球諸島の民政史」の中に、返還施設の改善・移転費六千五百万ドルなどの秘密資料が公開された。米公文書は、政府が負担していたことを明らかにした。日本側の裏負担は約二億ドルに上り、返還協定は封印された。陸軍省参謀部軍事史課が作った「琉球諸島の民政史」の中に、返還施設の改善・移転費六千五百万ドルなどの秘密資料が公開された。



沖縄返還密約に基づく日本政府の金銭負担を証明する米政府の「琉球諸島民政史ファイル」＝中央＝とニクソン・ファイル

沖縄返還協定、国会で密約問題を追及した横路孝弘氏(当時社会党、現民主党衆議院議員)に西山太吉氏の提訴を機にあらためて話を聞いた。(聞き手 東京報道部・普久原均)

### 当時、国会で密約問題を追及した 横路・衆院議員に聞く



「政府は密約を認めた」として、西山太吉氏が提訴した。横路氏は「密約はなかった」と主張する。西山太吉氏は「密約はなかった」と主張する。西山太吉氏は「密約はなかった」と主張する。

## 変わらない秘密体質

沖縄返還協定、沖繩を核と見なされた。政府は「核抜き返還」を主張したが、結果として、密約が暴露された。横路氏は「密約はなかった」と主張する。西山太吉氏は「密約はなかった」と主張する。西山太吉氏は「密約はなかった」と主張する。

## 政府、米に口止め

### 対応の違いはつきり

### ニクソン・ファイル

返還協定の密約を証明する米公文書は、政府が負担していたことを明らかにした。日本側の裏負担は約二億ドルに上り、返還協定は封印された。陸軍省参謀部軍事史課が作った「琉球諸島の民政史」の中に、返還施設の改善・移転費六千五百万ドルなどの秘密資料が公開された。

## 政府 「5カ国協議」を

### 北朝鮮核問題対応 中国の奮起促す狙い

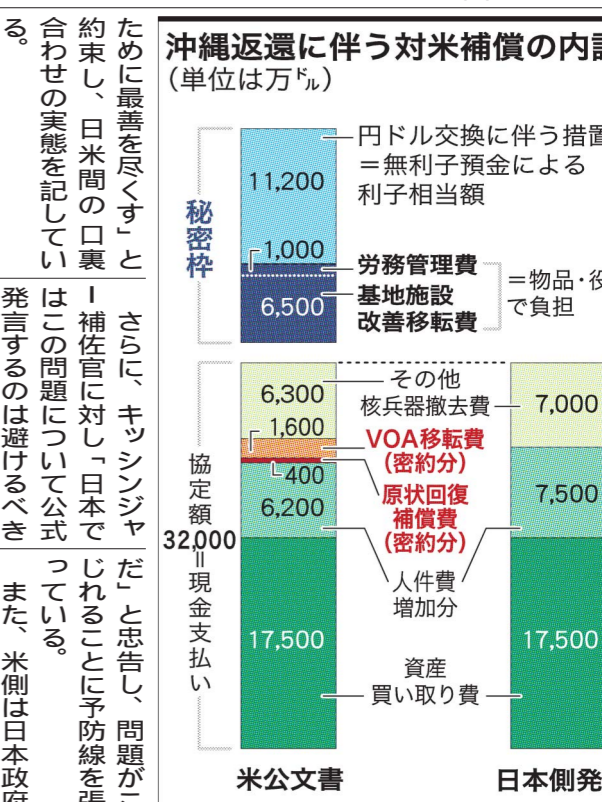
政府は、北朝鮮が引き起こした核問題に、五カ国協議再開を促す。中国の奮起を促す狙いがある。北朝鮮核問題対応 中国の奮起促す狙い

## 津波対策で海岸林整備 ODA検討

政府は、津波対策として海岸林を整備する。ODAの活用を検討している。津波対策で海岸林整備 ODA検討

### 我部政明・琉大教授 文書を掘り出し 存在認め、事情説明を

「密約はなかった」と主張する。西山太吉氏は「密約はなかった」と主張する。西山太吉氏は「密約はなかった」と主張する。



イチローが四割を打って、球界の王者となった。その功績は、球界の歴史に刻まれる。イチローが四割を打って、球界の王者となった。その功績は、球界の歴史に刻まれる。

## 日曜評論

山内 眞樹 (日本公認会計士協会沖縄会会長) は言えないが、世間の評価と高い報酬を約束してくれる。小生は確率の職業の第一志望が野球選手というだけのことである。しかし、その差は二十回打席に立った時、打率二割五分の選手は五本ヒットを打ち、三割の選手は六本ヒットを打ち、三割五分の選手は七本ヒットを打つ違いである。

## プロ野球と社長の年俸

プロ野球と社長の年俸を比較する。社長の年俸は、プロ野球選手の年俸に比べて、桁違いに低い。プロ野球と社長の年俸

## 首相動静

首相の動静に関するニュース。首相は、海外視察を終え、国内に帰国した。首相の動静

その他のニュース。経済界の動向や、地方自治体のニュースなど。

## プロ野球と社長の年俸

2005年5月15日  
(琉球新報日曜評論)

イチローが4割を打ってくれたらなあと思う。

野球選手の年俸には、天と地の差がある。

打率が2割5分の選手の年俸は2千万円であり、

3割の選手は 2億円で、

3割5分なら 20億円である。

それぞれ10倍の差となり、2割5分と3割5分では100倍となる。

しかし、その差は20回打席に立った時、

打率 2割5分の選手は5本ヒットを打ち、

3割 の選手は6本ヒットを打ち、

3割5分の選手は7本ヒットを打つ違いである。

たった1本の差が、10倍、100倍となり、1.8億円、18億円の差となる。3割5分の選手が100人力であるわけではないし、2人力ですらない。

人の力はそんなに変わらない。1本の為にどれだけ努力したかということであろう。しかし、結果としての1本の価値は極めて大きい。

努力の壁を突き破れば新しい世界が開ける。

世間が1本の価値を認める世の中になりつつあるのかもしれない。

努力を大きな対価で認めようという方向に進んでいる。スポーツや芸能界など、必ずしもこのような世界は広いとは言えないが、世間の賞讃と高い報酬を約束してくれる世界は確実に広がっている。

小学生の将来の職業の第一志望が野球選手というだけのことはある。

ところで、会社などの組織においては、まだ個人の成果を認めない傾向がある。

会社の仕事というのは、組織で行っており、本来、一人ですべてをできるものではないから、それに差をつけるのはおかしい、野球などのように個人プレーの世界ではないということであろうか。しかし、ことさら個人の成果を認めないのも悪平等である。

例えば、日本の社長の年俸である。

日本ではせいぜい他の従業員の10倍、多くても20倍である。まして沖縄ではそこまで行かない。ヤフーの会長の240億円というのは超例外としても、アメリカや中国では数100倍というのも珍しくない。日本の社長は圧倒的に給料が少ないということになる。

確かに、仕事の質と内容を比較すれば簡単に結論は出せないのかもしれない。アメリカの社長が膨大な報酬と強大な権力を与えられていると同時に、すごい結果責任を取らされることから見れば、そして、会社の業績が経営者の戦略とか判断とか、その人の能力で非常に変わっていることも現実である。それを報酬決定権者である株主が望んでいることは確かである。

しかし、会社の経営は社長だけで行っているのではない。経営には従業員の協力が必要である。社長が給料を多く取りすぎれば、労働意欲にも影響を及ぼしかねない。ここは難しいところである。また、給料よりも仕事そのものが報酬であるという名経営者も多い。

沖縄経済同友会の例会で宗文洲先生（ソフトブレーン会長、「やっぱり変だよ日本の営業」等の著者）の話聞いた。人間は差があるから努力する。チャレンジすることを評価し、結果平等ではなく差を公平に評価する。

同じ川の源流で生まれた小魚も、同じ兄弟でも、2年経ったら、小流に住み続けていた者と大海へ旅した者ではその差は大きくなる。ヤマメとサクラマスとの差になってしまう。天と地の差となると話された。この差は野球選手の年俸と同じである。

この話をきいたあと「差」ということについて考えさせられた。差というものの大切さを理解し、「差を認める」ことが「曖昧さ」を排除し、ビジネスの効率を高めるのではないか、仕事の間では「差」を認めるべきではないかと感じた。

社長の給料を100倍にすることは乱暴だが、この「差」の認識を高めれば会社の業績もあがるのではないか。